

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・セールに入ると同時に気温の冷え込みが深まり、稼働していなかったアウターが動いた。ただし、福袋・セールは売上としては好調であるが、まとめ買いが減っている。また、セール2日目の落ち込みが大きかった。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・物価が上昇する気配があり、商品単価自体が上がったという見方もできるので必ずしも景気が上昇しているとは即断できないが、全店が前年実績を割るという状況から、やや前年をクリアする店が出てきている。
		コンビニ（エリア担当・店長）	来客数の動き	・例年に比べ1月は比較的客の来店頻度が向上している。正月以降は財布のひもも固くなりがちであるが、今年は多少緩みがちである。
		乗用車販売店（従業員）	来客数の動き	・3月決算を前に、今月から客の出入りが多くなりつつある。
	変わらない	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	単価の動き	・客単価が下がっている。いろいろな物が値上がりし始めたため今後は客単価が上がらないといけなのだが、なかなか難しい。
		一般小売店〔茶〕（販売・事務）	単価の動き	・お茶が好きな客はお歳暮でお茶をもらっているため、1月は毎年店内売上が減少する。そのため、外販時に事務員の方に自宅用の特売品を宣伝し、売上げにつなげている。徐々に注文は入っている。
		百貨店（企画）	来客数の動き	・来客数の減少傾向に歯止めが掛からない。売出し時など一時的に来客数が増加することはあるが、月次では減少している。
		スーパー（経営者）	単価の動き	・原油等の値上げで価格が上がり、販売点数が減っている。
		スーパー（総務担当）	お客様の様子	・寒さが厳しくなっている割には衣料品の売上が伸び悩んでいる。客の買い控えがまだまだ続いている。
		スーパー（経理担当）	販売量の動き	・競合店の出店が相変わらず続いており、業界にとっては厳しい状態が続いている。
		コンビニ（エリア担当・店長）	単価の動き	・店で使えるポイント制のセールを行うが、ポイントの対象商品があまり売れておらず、客はポイントを活用していない。必要ものだけを買っていくためである。
		コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・量販店向けは前年比113.3%、コンビニは同95.3%、ローカルスーパーは同114.0%とほぼ3か月前と変わらない。予算を満たすためにいろいろな企画に取り組んでいるが、なかなかプラスアルファの売上が増えない。
		衣料品専門店	販売量の動き	・冬物衣料が最盛期のこの時期、半額にすれば例年売れるのに、それでも慎重に選んだり、買わなかったりで、この時期としては売上が上がらず困惑している。
		衣料品専門店（店員）	お客様の様子	・セール品の下見をして価格が下がるのを待っていたらしく、30%オフから50%オフにした途端、一気に売れた。セール売上自体は前年を上回っているが、客の買い方の内容にシビアさを感じる。
		住関連専門店（経営者）	単価の動き	・初売りからの来客数はここ数年多くはないが、初売りでのプライダル家具等の高額商品の売上が少ない。
		その他専門店〔ガソリンスタンド〕（統括）	お客様の様子	・1月の燃料油の仕入価格は12月に比べ下がったので、小売価格も下がった。それでも前年に比べ小売価格は高いので、客からは節約している様子がうかがえる。ただし、灯油などの販売量の大きな減少はない。
		高級レストラン（専務）	来客数の動き	・NHK大河ドラマの放送による効果から県外客は少しは入ってきているが、反比例して市内の人の動きが鈍くなっており、全体としては横ばいである。
		旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・月前半は年末年始の好調の反動が、来店数は少なかったが、後半は良くなった。しかし、出発日ベースでは国内・海外とも前年を下回っている。
	旅行代理店（業務担当）	販売量の動き	・原油の高騰による海外旅行費用が上昇している。景況感が大幅に良くなれない限り、娯楽性の需要はなかなか伸びない。	

	タクシー運転手	来客数の動き	・市内には日中でも人の出入りが少なく、買物客も少ない。今になって市内で大きな会社やガソリンスタンドがつぶれている。
	通信会社（管理担当）	販売量の動き	・年度末調整で仕事量は増加しているが、前年比での売上高は減少傾向である。
	通信会社（業務担当）	販売量の動き	・新商品、新サービスの人気は高いが、売れ筋商品の在庫不足により、販売数が伸ばせない状況にある。
	テーマパーク（職員）	来客数の動き	・12月～年末年始以降、宿泊・ゴルフともほぼ前年並みであった。また、ブライダルフェアもにぎわった。
やや悪くなっている	商店街（組合職員）	それ以外	・商店街の空き店舗調査によると、空き店舗が20%を超えている。1年前からの貸店舗、売店舗がそのままの状態である。店主の高齢化と後継者不在の店が多いため、この状況は拡大する。
	商店街（代表者）	お客様の様子	・客は暖冬のため買物を控えている。灯油の高騰等があり、政治の動きが主婦層の間でも話題になっている。
	百貨店（売場主任）	お客様の様子	・クリアランスセールシーズンだが盛り上がりにかけている。年々のことだがセールで盛り上がる期間が短くなっている。
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・灯油や食品等、生活に密着した商品の値上げから、客は必要とするものしか買い求めている。
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・ギフトお買得セール等の割安感のある催事は大盛況であるが、例年盛況だった駅弁大会や質流れ市等の嗜好性の高い催事は伸び悩んでいる。嗜好品、ぜいたく品の購入意欲の減退傾向が一層強くなっている。
	百貨店（営業担当）	販売量の動き	・物価上昇と株安の影響もあり、高額品を中心に全般的に消費は不調である。なかでも昨年より値上げが続く海外特選ブランドや、宝飾品等が苦戦しているほか、衣料品も動きは鈍い。リビング用品と食品のみ昨年を上回っている状況である。
	百貨店（販売促進担当）	お客様の様子	・客全体に購買意欲が感じられない。特選商品、高級ブランドの売上が前年を下回っている。催事関連も、まとめ買いの動きが全く見られない。
	百貨店（売場担当）	販売量の動き	・1月はクリアランスであるにもかかわらず子供服を除くすべての衣料品で前年比90～95%で動いている。同様に身の回り品、関連商品も良くない。前年9月以降、来客数は前年比99%程度であるが、売上は同96%台と、来客数に対する買上が少ない。食品の単価は上がっているが、衣料品は落ちている。
	百貨店（売場担当）	販売量の動き	・売場にいる実感として、客の洋服の買い方が慎重になっている。他の店と比較したり、更に安くなるまで様子を見る等、下見では来店するがすぐその場で買上につながる事が少ない。
	百貨店（営業企画担当）	販売量の動き	・一部のこだわり品やトレンド商品、独自の仕掛けを実施した商品については好調なもの、最終的な月合計では、来客数、買上客数、客単価とも昨年実績を下回っている。
	百貨店（業務担当）	お客様の様子	・報道が原油高、物価上昇のニュースに集中しているせいか、先行きの不安だけがあおられている状況にあり、客も買上に非常に慎重になっているのがわかる。また、商品価格の改訂から、買い回り品である高額品において、以前購入を検討していた客が、価格が上がったため買わないということも起こっている。
	スーパー（店長）	お客様の様子	・商品の値上がりとともに買上の点数が減ってきた。1人当たりの買上点数が0.3点くらい減っている。
	スーパー（店長）	お客様の様子	・物価の上昇もあり、節約意識は非常に高まっている。生活に直結する食品はそう落ち込んでいないが、衣料品は価格を下げただけではなかなか売れない。よほど欲しい品以外は我慢している。
スーパー（店長）	お客様の様子	・来客数が平常で1割ほど落ちている。年明けからのガソリンの高騰で、客の消費動向が鈍っている。	
衣料品専門店（店員）	販売量の動き	・セール時期で利幅も低く、割引率も日を追うごとに大きくなるが、販売量は安くなったからといってたくさん売れるというわけではない。結果的に、利幅が減って買上数は変わらず、厳しい結果となっている。	

	衣料品専門店 (総務担当)	単価の動き	・主力の婦人服の売上は、ミセスが前年比8%減、ヤングが同3%減で売上単価も低下している。バーゲン時の来客数は前年並みだが、平日・土日とも売上が減少しており、月間の平均単価が落ちている。また、宝飾品の売上単価が大幅に落ちている。時計の売上が前年比20%以上減少した。
	家電量販店(総務担当)	販売量の動き	・以前の初売りと異なり、ついで買いが極端に減り、客は必要な物しか買わなくなっている。福袋の売行きも悪かった。
	乗用車販売店(管理担当)	販売量の動き	・燃料の高騰、株価の下落が心理状況に現れ、販売台数が伸び悩んでいる。来客数は変わらないが、成約率が以前に比べ落ちている。コンパクトカーはまずまずであるが、大型車が鈍っている。
	高級レストラン(経営者)	来客数の動き	・新年を迎えてから客足は良くない。昼の弁当の注文等、今まで行っていなかった施策で売上は少しは立っているが、それでも本業の来客数が増えないので、店を支える要素にはなっていない。
	観光型ホテル(営業担当)	単価の動き	・競争相手の要因もあるが、総合的に料金の低価格が続き、薄利多売の営業をせざるを得ない。
	都市型ホテル(スタッフ)	来客数の動き	・年末の忙しさからの反動があったほか、今年は先行き不安による客足の鈍さが目立つ。
	都市型ホテル(副支配人)	販売量の動き	・単価を下げて来客数を回復できない状況になりつつある。
	タクシー運転手	お客様の様子	・客は、金に関してかなり渋くなった。食料品等の生活必需品には多少値上がりしても金を使うが、それ以外は節約し、タクシーもかなり影響を受けている。
	タクシー運転手	お客様の様子	・バスでの観光客は増えているが、タクシーでの客は減っている。夜の客も増えていない。
	通信会社(総務担当)	お客様の様子	・販売量から見ても、3か月前の増加率に比べ減少しており、客の財布のひもが締まってきている。原材料価格の高騰に伴う消費低迷が背景にある。
	観光名所(職員)	来客数の動き	・観光施設については前年より10%来客数が増えている。今はNHK大河ドラマの効果が少しずつ出てきているが景気浮揚感はなく、良くなった感じはない。また、ゴルフ場の来客数は前年より少し落ちている。
	ゴルフ場(従業員)	来客数の動き	・来客数、入場者数の動きが年明けから悪く、天候は悪くないにもかかわらず入場者数がここ4~5年で一番落ちた月になった。
	競馬場(職員)	来客数の動き	・発売金の落ち込みより来場者数の落ち込みが著しい。
悪く なっている	商店街(代表者)	お客様の様子	・客は必要な物以外は買わない。本当に寒くなってくると防寒物に手を出す、少々のことでは我慢するという購買行動になっている。
	一般小売店[青果](店長)	それ以外	・来客数、単価、客の様子、競合相手の様子、すべてが悪い。温暖化の影響から県外で雪が降らず野菜が飽和状態で、価格が下がり、箱代も出ない状態で販売している。その分客単価も下がり、かなり厳しい状況にある。
	百貨店(営業担当)	お客様の様子	・各企業のボーナスの厳しさ、ガソリン価格の高騰、今後の経済の不安等があり、来客数はそう変わっていないが1人当たりの単価の下落が顕著であり、従来になく深刻な状況である。
	コンビニ(エリア担当)	単価の動き	・昨年末のボーナスの減少に加え、ガソリンや食料品の原料の高騰による値上げ等によって、客単価が大幅に減少し、昨年実績を下回った。
	衣料品専門店(店長)	販売量の動き	・年初以来客足が途絶え、石油製品の値上げの影響もあってか買い控えムードがまん延している。初売日も全く効果がなかった。
	衣料品専門店(店長)	お客様の様子	・いろいろなものが値上がりしている。じわじわと影響が出るようで、客の財布のひもも固くなっている。我慢の時期がずっと続きそうである。
	高級レストラン(経営者)	競争相手の様子	・当県で3本の指に入る料亭が12月末で廃業している。売上減少に歯止めが掛からなかったためであり、厳しい状況である。
	都市型ホテル(総支配人)	単価の動き	・原油高騰による商品の値上げが続くと予想され、消費者の節約傾向が見られる。そのため、提供料金において競合各社の低価格競争が激しさを増している。
企業 動向	良く なっている	-	-

関連	やや良くなっている 変わらない			
		農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・加工メーカーからの原料肉の引き合いが強くと、需要に応じられない状況である。ただし、1月に入って少し寒さも緩んだにもかかわらず、居酒屋、スーパー関連は予想と違い少し落ち込んでいる。
		食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・販売価格は据え置きだが、比較的安定した受注がある。
		窯業・土石製品製造業（経営者）	取引先の様子	・原材料、特にガスの値上がり利益を圧迫している。現在、陶磁器でも中国製品の品質的な状態を調査するため、上乗の原材料等に関する様々な調査が行われている。日本製品の注文も入るようになってきているが、やはり原材料の値上げ等があり、単価の抑えられた状態では厳しい。
		建設業（総務担当）	受注価格や販売価格の動き	・民間工事の入札では、明らかに資金繰りのためと思われる低価格入札が多く、落札できない状況である。適正価格での入札は絶望的である。
		金融業（得意先担当）	取引先の様子	・企業間はもちろんのこと、業種間でもかなり差が見受けられる。自動車工場の増産から自動車部品工場が設備投資をするという発表など良いニュースがある一方で、建設業者はいまだに厳しく、業種間、企業間でかなりの格差がある。
		不動産業	競争相手の様子	・分譲マンション・賃貸マンションが供給過剰となっており、売れ残りや空室が多い。以前のように、新築だからといって満室とはならない状態である。中古マンションも多く残っており、なかなか売れていない。
	やや悪くなっている	家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・建築申請認可の遅れから住宅メーカー、マンションデベロッパーのしゅん工物件が3割以上減っている。その影響で、家具の売上も落ち込んでいる。
		窯業・土石製品製造業（取締役）	取引先の様子	・全体的には景気は下向きである。メーカーでも大手と中小・零細企業で市場格差がだんだん出てきている。燃料、資材の高騰で中小企業は特に業績が悪くなっている。
		輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・受注量や販売量が少なくなっている。ただし、中でも高級ペットフード等、高級雑貨は売れており、庶民的なものとは二極化している。以前であれば高級なものは売れなかったが、今はメーカーがターゲットを絞って新製品を出しているためである。
		金融業	取引先の様子	・中小企業の資金繰りは厳しさを増している。特に建設業、食品製造業などが厳しい。改正建築基準法の施行、原価の上昇が要因である。
		金融業（営業担当）	取引先の様子	・電気工事業で、継続する受注単価低迷及び建設資材（銅線等の金属）の価格の上昇に加え、ガソリン代の上昇が続き、利益が出せていない状況にある。
		金融業（営業職 渉外係）	それ以外	・原油高騰や株急落の影響を受け、家計や企業活動に大きな影響が出てきている。特に小売業者は消費者の購買意欲が減退し、売上は前年割れで推移している。運送業者も燃料高騰で収益、資金繰りとも悪化している企業が多い。
金融業（調査担当）		取引先の様子	・原油等の一次産品価格の高騰を受け、価格転嫁が困難な中小企業において、広範な業種で収益が圧迫されている。	
経営コンサルタント		受注価格や販売価格の動き	・売上が苦しいところが非常に多い。さらに石油価格、原料価格の高騰でその分をどこかで節約しなければならぬと、どこの企業も節約を心掛けている。一般的に消費購買力は減ってきている。	
その他サービス業 [物品リース]（従業員）		取引先の様子	・取引先における設備投資意欲のパロメーターとも言える引き合いの案件がここに来て大幅に減少している。また、案件も小口化の様相を呈してきている。	
悪くなっている	繊維工業（営業担当）	競争相手の様子	・取引先の状況も悪いが、今年に入って競争相手が3件倒産した。団塊世代がものを買わなくなっているという影響もある。	
	電気機械器具製造業（経営者）	取引先の様子	・半導体を含む電子部品関連全般において、大手、中堅企業とも今年度に入って非常に動きが鈍くなっている。精密機械部品も同様に先行き不安感が一層増している。	
	経営コンサルタント	取引先の様子	・酒類小売業の12月ギフトの動きが前年比20%減と動きが鈍い。ビールの消費も悪く、経営が先行き不透明になっている。	

雇用 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良 く なっている	人材派遣会社 (社員)	周辺企業の様子	・取引先企業の業績が徐々に上向き、新規事業を予定するなど少し活発になっている。それに伴い雇用の需要も見込まれる。
		職業安定所(職 員)	求人数の動き	・新規求人の動きは昨年9月以降12月まで前年比20%台の増加と高い伸び率を示している。特にパートは前年比40%増となり、人手不足感が目立っている。
		民間職業紹介機 関(社員)	求人数の動き	・年度末需要が増加してきた。特に人材派遣では、販売、受付、経理等の単発、短期の案件が増加している。ただし、従来のような長期も含めた案件の増加はない。
	変わらない	人材派遣会社 (社員)	求人数の動き	・業務停止になった派遣会社の代わりに問合せが数件あった。軽作業等の人材の問合せが多く、人数も多かったが、一時的なことである。
		求人情報誌製作 会社(編集者)	それ以外	・改正建築基準法の施行による建設関連への影響や、ガソリンの値上げなどによる影響が懸念されたが、求人においては今のところ目立った変化は見られない。
	やや悪 く なっている	新聞社[求人広 告](担当者)	求職者数の動き	・アメリカのサブプライムローン問題の余波で、輸出関連の製造業からの求人募集が減少気味である。また、改正建築基準法の施行による住宅着工の減少で、住宅関連業界の求人募集も減少気味である。
		職業安定所(職 員)	求人数の動き	・有効求人倍率が昨年7月以降下がり続け、前年比でも9か月連続で下回っている。12月は0.62倍となり、2年前の水準に戻った。
		職業安定所(職 員)	それ以外	・今月に入り事業所閉鎖や廃業が増加している。また、12月の求人数も前年に比べ15%以上減少している。特に正社員求人の減少幅が大きい。
	悪く なっている	人材派遣会社 (社員)	求職者数の動き	・年始からの景況感悪化のあおりを受け、企業側が採用枠を縮小し様子を見ている。
		民間職業紹介機 関(支店長)	求人数の動き	・長期契約の注文数が前年割れとなった。2008年度の料金改定もほとんど受け入れられない状況にある。